

## 平成26年度 第5回がまごおり協働まちづくり会議要旨

日 時 平成27年2月11日（水・祝）  
午前10時～午後0時10分  
場 所 蒲郡市役所北棟1階集会室

伊藤承章委員に委嘱状交付

### 議題

#### (1) 平成26年度協働モデル事業の状況について

- 小田委員から進捗状況を資料により説明。
- 委員意見等
  - ・ 市との信頼関係をどう作るのか、誰が調整役となるのか大きな問題。次年度以降のモデル事業でも検討していくべき課題。
  - ・ 今後も異分野、多世代とのかかわりを作っていってほしい。
  - ・ 行政やまちづくりセンターとの調整には時間がかかることに留意して事業を進める必要があり、報告書に明記すべき。
  - ・ 三谷地区以外の他地区の人をどう取り込んでいくか。他の保育園でも要望が出てくると思うので、全市的な取組をお願いしたい。
  - ・ 花苗は、老人クラブを巻き込んだほうが継続性が出ると思う。子ども、老人が楽しく過ごせるまちを目指してほしい。
  - ・ より多くの市民に事業内容が伝わる仕組みづくりが大切。
  - ・ 今回のモデル事業のコスト計算をすべき。行政が直接行うよりもローコストであったと思う。こうした視点を持つことで協働が進んでいくと思う。
- 結論
  - ・ 市民参加型育苗のモデル事業は、今年度で終了する。
  - ・ 今回の事業実施での問題点や課題を次年度以降のモデル事業に生かしていく。
  - ・ 次のモデル事業の内容は、次年度開催の会議で議論する。

#### (2) 平成26年度蒲郡市市民企画公募まちづくり事業助成金について

##### ア 情報交換会について

- 事務局から、1月11日に開催した情報交換会の内容を資料により説明。
- 委員意見等
  - ・ 報告会のコーディネーターを行いうる方のリストを作るとよい。その際、費用を適切に計上すべき。
- 結論
  - ・ 予算や開催目的を含め、情報交換会の開催素案を市民まちづくりセンターで作成し、次年度の会議で検討する。

#### イ 実績報告会について

- 事務局から、今年度事業の実績報告会を5月17日に開催する案を資料により説明。
- 結論
  - ・ 5月17日開催が了承された。委員の参加をお願いします。

#### (3) 平成27年度蒲郡市市民企画公募まちづくり事業助成金について

- 事務局から申請状況を説明。
  - ・ 21団体の相談があったものの、実際には7団体の申請にとどまった。
  - ・ メンバー間の調整が間に合わなかったケース、申請準備が整わなかったケース、インフルエンザ等で申請できなかったケースなどがあった。申請にあたり、施設使用や協力者との調整を行うことを前提としており、初めて申請する団体からすると厚い壁になっている。
  - ・ 市民まちづくりセンターとしては、相談のあった団体と今後もつながり、次回以降の助成金申請につなげていきたい考えを持っている。
- 委員意見等
  - ・ 申請団体の相談に乗ってくれるような人や職員を増やしていくとよい。
  - ・ 毎回の課題であり、手法の見直しをすべき。書類の書き方に苦慮する話を聞いている。
  - ・ 説明会のあり方も検討すべき。
- 結論
  - ・ 市民まちづくりセンターで課題を整理した上で、改善案を会議で検討する。申請書類についても、今後会議で議論する。

#### (4) 協働まちづくり事業の総括について

- 事務局から、委員に事前送付した市長への提言書案を説明。
- 委員意見等
  - ・ 提言を行うことはよいことだと思う。今後も定期的に行っていくべき。
  - ・ 多様性を受け入れる段階（ダイバーシティ）から、関係者が対等に関わり合いながらまちづくりを行っていくというインクルージョンの考え方が求められていることを提言の文末に盛り込んでいただきたい。
  - ・ デザインの世界でもインクルーシブデザインの考え方が求められている。
  - ・ 今後指針の見直しに着手してほしい。
  - ・ 「協働」が何を指すものなのか分かりにくい。みんなが共有できるようなワンフレーズを次年度以降検討していただきたい。
  - ・ 市民と職員との協働研修はぜひ実施していただきたい。過去に開催されたときに参加し、お互いのことがよく分かり、その後の意思疎通が円滑になった。
  - ・ 役割分担が進みすぎると、お互いのことを関知なくなってしまう。適度な役割分担を行いつつ、時に確認し合うなどの配慮をすべき。
  - ・ 協働の進め方には行政主導、民間主導の二通りあると思うが、どちらがイニシア

チブをとるかをはっきりしないと動けないことがよくある。

- ・ 人をつなぐときには「と」と「の」があるが、大きな違いがある。「私とあなた」では狭間があるが、「私のあなた」と捉えると相手のことが自分のことのように考えることができる。これこそが協働のスタンスではないか。
- ・ 「無限の樹形図」という言葉がある。次代の子へ教えていくという考え方であり、職員研修においても参考にしてほしい。市職員が労働者になっていることを危惧しており、自分の蒲郡市と捉える職員を育成するために研修を行うことが重要。
- ・ 「隣人から家族へ、協働のまちづくり」
- ・ 人を「と」でなく「の」で見ると、悲しく感じてしまうことがある。情報過多の世の中から「と」で身を守っていることも事実。「私たちのまち」蒲郡が豊かなまちになるように会議で提言し、発信していくことが大切。

○ 結論

- ・ 本日の委員の意見を事務局で整理する。
- ・ 2月18日までに委員の意見を受け付け、提言書の内容を固める。
- ・ 今後の文言の修正等は、会長に一任された。

その他（事務局から）

- 事務局から、4月で委員の任期が満了するため、3月号広報で公募枠5名分の募集を行うことを説明した。

次回会議は3月26日（木）を予定。市長への提言を行う。

会議欠席者 なし